夕刊
二月十四日發行
定價 一部金五錢 月極金六錢 郵税共五錢
廣告料金 一段十二字詰一行金六錢 一回金九錢 一行一段 特殊廣告 要問合
發行所 碧城新聞社 平市田町十六番地 電話 平市 ●
東京 振替 一〇八、五六五番
（日曜祭日翌日休刊）

ぢよかいせんきだん

野本大藏

二

私は永い病氣の爲に露はになつて、一本々々數へる事の出來る友の肋骨を聯想した。

『一體この建物は住宅なのかね、なれとも倉庫なんだらうか』

この疑問は最初から抱いてゐたのだ。一見して格納庫のやうなこの建物は、明らかに倉庫であるらしかつた。然し。屋根の中央から駱駝の瘤のやうに、にゆつと突き出た眞四角の二階は確かに住宅だ。四方ガラス戸でかこまれたこの二階は階下の大きさに較べて、凡そ不似合なものである。住宅と云ふよりは物見櫓と云ふ感じだ。

私はフト佐藤春夫の『女誡扇綺譚』を思ひ出した。ぢよかいせんきだん——この浪漫的色彩の濃厚な小説を私は幾度くり返して讀んだ事か——

クンタウカン——本字で書けば禿頭港。臺南市の西郊、安平港の奥にある廣港が禿頭港だ。

昔は禿頭港が安平港第一の船着場として繁榮を極めた頃、沈と云ふ豪商が五十艘もジャングを持つて泉州や福州はもとより、遠く廣東までその覇を唱へてゐたそれが一夜颶風が襲つて、海は荒れ、陸は崩れた時、五十艘のジャングは殘らず難船したのである。

それからと云ふもの、沈家はその落日の如く忽ちのうちに沒落して了つたのだ

佐藤春夫はその素晴らしい描寫を以て、そのかみの豪華に趣きの漂つてゐる禿頭港の廣屋を中心とした妖しく奇しき物語を、私の胸深く印象づけられたのだつた。

知は異國風な廣壇の美に限りない愛着と憧憬を惜しまなかつた。事實それまでは何にもかけなかつた臺灣で、何處にも手掛りがないから嫌になつちまうよ』

『何んで御座んせうねね親分、いくら押の强い野郎でも、まさか築地や中洲邊に隠れてゐるやうな事アねえ』

『それはなんとも云はれねえ、あの嚴重な警戒の中でも、圖太く横町の信濃屋で仕事をした位えし奴等だから、案外目の先に平氣な顔で住んでゐるかも知れねえよ』

『さうでせうかね、處で親分、今晩は七草でもあるやうだから何處へもお出張りにならねえンで御座んせう』

勘太が、何氣ない態を裝つて訊くと、茂十の目がギロリと光つて

『何に？訊いてどうするんだ』

『う、へえ、實はその、それ——』

『自然の探索心からとでも云ふのか』

『な、な　なんでもねえンで御座んすよ。いやどうも大變御馳走になりやした。黄房の親分も御免なすつておくんなせえやし』

何んとなく內兜を見透かされたやうな氣がした勘太と小六は、匆々に茂十の家を引上げて、中洲　料亭如十手月へ飛んで歸つた。

『親分、大變だ』

餘程周章てゝ、見へて、呼吸が荒く言葉が出て來ない。

『どうしたんだ？落ついて物を云へ』

流石に鬻樓組の首領だけあつて、權十郎は動ずる色もなく振り返つた。

『なか〳〵落ついてゐる場合ぢや御座んせんや』

『どうしたと云ふんだ』

『どうもこうもねえどうやら茂十のやつ、此の邊に目をつけ始めやがつたんで』

『なに』

權十郎の顏は、見る〳〵引締つて行つた。

『それや本當か』

『本當にもなんにも、油斷依ると、けふあすのうち手入があるかも知れやせんせ』

『それもさうで御座んすかそれ〳〵も先に、まず此の隠れ家を變へなくちやア危ない御座んすせ』

『ちやアもうそんなに急なのか』

『急で御座んすとも、事に依ると、けふあすのうち手入があるかも知れやせんせ』

『どうしたと云ふんだ』

『其處ですよ、まつたくあつし共も不思議でならねえもんですから、

それをなんとなしに訊いて見るてゐと、矢ッ張り京橋の矢の倉茂十と人に云はれるだけあつて、伊達にやアこつし手を光らしちやア居りませんやね、やられる家が何時も定まつて河岸に近ね場所だから、船を使つて居る船を使ふからにやア、どうせ隠れ家も水に便利な處だらうと云ふ譯でしてねえ』

『なる程さうか、こいつは今迄こつちがうつかりしてゐた。向ふでさうと感附き變へてやらにやアなるまい』

つた。一體どうして判つた

『それもさうで御座んすかそれ〳〵も先に、まず此の隠れ家を變へなくちやア危ない御座んすせ』

『ふーむ、水に便利な場所とはよく見込みをつけやが

千人針由來（三）

東國愁

千人針と前述の寅年生れの女性關係で、既に之が迷信、否は仰狀態を暗示されてゐるではないか、又字義上から推して、右と其の始末が全く通じてゐるのである。乃ち『戰捷』は漢字の音訓であるが、今日では立派な日本語である若し此の文字が總べて『千勝』としたとて、英語同意で、日本古來の習俗上に『千社詣り』『千發した行動であり、又通語勝祈り』があるのも皆一脈同意に過ぎない。乃で又右可成り舊いのである。以上の『千勝』は『ちかつ』と和讀的に讀んだ所で同じくらした意味から『千勝』なる人の名や用語が昔も今も用ひられてゐる。是れは單に二社に、近津大明神と尊稱する二社がある。

好緣起を捜ぐ靈的意識から

乃ち『千勝』は『ちかつ』と一座も敗ないで、千度び全部が勝利するといふ

哭八田代議士（其の二）

珠雲　小野務平

鄕國貔貅戰頌歌
年々黨議濟民多
天公高人不假借
奈此艱難世局何

講談

悲戀 **闘髏組**（114）

林李兵衛作
金子士郎畫

運命（九）

『何處と云ふ事はない、一應は片ッ端から虱潰しに探査して見るんだ。そのうちでもう調へを濟した處もあるが、まつたく雲を摑むやうで、何處にも手掛りがないから嫌になつちまうよ』

『何んで御座んせうねね親分、いくら押の强い野郎でも、まさか築地や中洲邊に隠れてゐるやうな事アねえ』

『それはなんとも云はれねえ、あの嚴重な警戒の中でも、圖太く横町の信濃屋で仕事をした位えし奴等だから、案外目の先に平氣な顔で住んでゐるかも知れねえよ』

『さうでせうかね、處で親分、今晩は七草でもあるやうだから何處へもお出張りにならねえンで御座んせう』

勘太が、何氣ない態を裝つて訊くと、茂十の目がギロリと光つて

『何に？訊いてどうするんだ』

『う、へえ、實はその、それ——』

『自然の探索心からとでも

天氣豫報

小名濱測候所發表

今晩は南の風雨
明日は北西の風曇
後晴

平局俳黎會　一月句會

『雜詠』（九）

○涙ぬぐのまに暮れたり屠蘇の醉　石城
○咲きそめて子に遠く置く寒の梅　應子
○そこばこの水も凍てあり寒の入　同人
○やにかくに足りて雜煮の味甘し　華山
○初詣幸ひたこめん拍手に　同人
○初詣辿る山道雪明り　同人

廣告

酒とマヅイ
おでんの家ちやん
平市田町花ノ町
電話三三番

松村醫院

難波醫院
內科
小兒科
入院應需
自炊の便あり
平市大町
電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波睦

食事
喫茶
酒場を兼ねた
レストラン
サロン
平田町
電話三五二

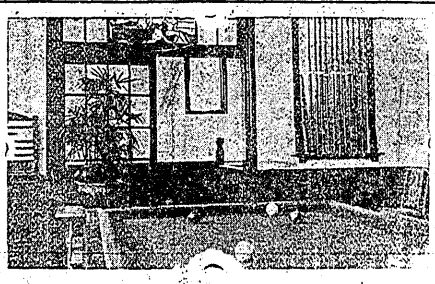
品質第一
電話二六二番
平牛乳舍
平市・九品寺前

平みやげ米やの最中
尚一層風味と品價を吟味致しまして
御客樣を御待ち致して居ります。
平市五丁目
米屋最中專門店
電話（呼）二九〇番
ソセイ
ナンヨー散
南洋蘇製社平代理店

產婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平市田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
十二封度レール、トロ、輪付屬附
鐵工工具品　新品着荷致しました
一二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵
機械
KS
井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一
電話五二二番
荷受場　平市鍛冶町廿三番地
倉庫　平市鍛冶町九番地
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

◎◎◎
如何にして成金になつた？
日支事變は國力の大發展であり我經濟界の一大飛躍期であります。事業の擴充、財界の膨脹期に於て、苟くも株式界に雄飛せんとせらるゝ方は、眞に千歲一遇の絶好期であると同時に、相當の危險もあることと思はれますので、當事務所は各位の危險を避け御成功を希望する爲め過般來數ある法則や卦線學を檢討吟味いたしました結果、茲に株式相場の波動原理と必勝相場術なる憲法書を推奬する次第であります。御希望の方には御申込次第お分ちいたします。
平市四丁目三十三番地
富岡事務所
電話二五八番



季節料理
小鳥料理
鐵道指定旅館
割烹
小瀧鑛泉
電話小名浜一〇三

ベークライト職工
見習募集
一、募集人員三十名
一、年齡十四歲以上二十歲迄ノ男子
一、待遇
十四歲—十六歲日給七十五錢
十七歲—十八歲　八十錢
十九歲—二十歲　一圓
技術修得ト共ニ漸次昇給ス
一、寄宿舍ノ設備アリ、賄料ハ實費トス
一、申込所　平市職業紹介所
詳細ハ、ミクニ工業所若クハ平職業紹介所ニ問合ハセラレタシ
東京市大森區大森町入新井町七丁目二六二
ミクニ工業所
電話大森六九〇九番

平病院
平市警察署側（元磐城共濟病院跡）
（電六四一番）
院主／院長　醫學博士　鈴木定藏
內科　院長　鈴木定藏
小兒科　部長　佐藤幾要司
內臟外科
一般外科
皮膚尿泌器科　副院長　高橋俊幸
レントゲン科
物理的療法科　部長　醫學博士　鈴木定藏
技師　吉川元雄
藥劑科　部長　藥劑師　吉本孝平
◎診療時間　毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕
入院料　一日　特等—貳圓　一等—壹圓五拾錢　二等—壹圓參拾錢

◎互融會事業報告　十二月中
融通口數　三六四口
融通金額　一五一、四〇九、六〇〇
滿期拂戻口數　一〇六、〇〇〇
滿期拂戻金額　五、六〇〇、〇〇〇
概況昭和十二年十月末現在
會員數　八、三六一
世帶數　五、六八一
積立金額　二六、一三〇、〇〇〇
融通金額　一五、四〇九、六〇〇
融通金回收高　六、六三〇、〇〇〇
滿期拂戻口數　六〇一
滿期拂戻金額　二九、一〇五、〇〇〇
一、社會公共事業及慈善事業ヘノ寄仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及斡旋ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通
太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平市蛭槌小路一番地
電話五五番
小名濱方部　小名濱町古湯
菊田方部　植田町益町
湯本方部　湯本町天王町
相双方部　原町東一丁目

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三七番
平　驛前
阿部石炭店

近眼老眼亂視眼用
メガネ澤山取揃つて御座居ます。
是非一度御來店下さい
各眼科處方調製
正確と勉强の店
玉屋眼鏡店
平市二丁目

月曜論壇

兒童と体力檢査

愈よ最後の試練日を月餘の後に控へた各小學校ではこの難關を突破する準備教育に一段の異劍味を加へ、殊に平第一校の如きは從來の所謂人物考査に對應する學科の徹復習から一歩を進め、其時に及んで健康の試驗台に立つて之亦優秀の成績を納めしむる積、既程金受驗兒童に對し運動競技に關する實際成績を徵し、學科と併せた模擬試驗を行つたとの事である、蓋し人物と健康とを等價値に認むる新考査制度の前に當然の事であり、之の試みが試驗執行の當該校に於ける實際採點方針に對し果して何れ丈けの近似點を有するかは第二として現され新考査法の內容に即應した準備を與へらるる事は、將來之の方面に對する刺戟を深め受驗上一日の張味を結果する意味に於て、既際當人及び父兄の感謝措く能はざる處である。次に之は小學校側とは別個の問題であるが、吾人父兄をして率直に云はしむれば今回制定された入學者選拔法要項中、兒童の身体檢査に就て身長、体重、胸圍、座高等即ち機械器具によつて測定し得るもの及び脊柱、胸廓、營養、皮膚、五官其の他の疾病異常等醫師の診斷によつて其の健否を知悉し得るものは勿論議論は無いとして身体各部の運動並身運動以外体力檢査の一項目として競技を加へた一事は、實際に於て之に如何程の重要味を認むるかは知らぬが吾人門外漢として其間些か首肯し難き點無しとせない。即ち劃一的に之に拘泥する時は、左迄優秀な体力を所持せず單に練習による技術の巧妙から高點を獲るものあるに反し實質上立派な体力を有し乍ら練習の機會に恵まれなかつたなどで最後の試練に不覺をとるが如き兒童も未だ以て之れ無きを保し難いものがある。人力車夫のマラソン優勝は嚴格なる運動競技の觀念から果して眞の勝者たる否や。須らく寛厳宜しき考査を望んで已まぬ。

受驗兒童に一大負擔
運動競技の實演開始
第一校新制度に即應

男女中等學校の試驗期日は愈一日と迫つて行く。疾くから其の必要を感じ乍ら當面の學科教授に追はれと遂い延々になつて居た運動競技方面の指導訓練に就き、百四十名と云ふ大量受驗兒童を有する平第一小學校では、愈よ既程學科と綜合して体力檢査の模擬試驗を行ひ其結果を各家庭に通知した

試驗は

懸垂屈臂　三回跳び　懸垂　走五〇米　バスケットボール投げ

の以上五種目で何れも定められた標準の內から選定したものであるが學術、操行、体力の三拍子揃つて優秀な兒童も勿論絶無ではないが何れかと云へば稀有の事であり、彼見体力檢査に就ては相當之を苦が手とする兒童もあり、之を一丸とした採點を基本とせる成績順位は從來の學科一本のそれに比して甚だしい高低の大異動を生じ、兒童及び父兄間に期暗夫々の氣分を漂はせてゐる。

十三年度新豫算
最後の仕上げへ
市の編成着々進む

市の機構に於て最初の編成を開いて支部長八巷署長、副を都長二名、理事若干名を擧げ縣協會と連絡産業報國の實をあげることゝなつた

保安林編入　森林法によつて下小川、田人兩村の左記所有林が保安林に編成され、鎌村大會字吉原地內二町七反は保安林を解除された

毎日對岸を睨んで
大に張り切つて居る
青天目源一郎君（通信）

市內紺屋町出身

小生は軍隊にて益々元氣郷平市も今年は非常に寒く軍務勉勵何卒御安心下さ殊にチフスが狂烈に流行の樣子、御一家御一同樣益々御健康に御注意の程切に御祈り申上ます。

臺國民擧げて一丸となり東洋平和の大業に勇躍邁進の秋に欣快に堪へません

陣中を聴く
(87)

今般は御繁忙中故郷より御芳書に接し誠に二、三度を示して居ります厚志御敗殘兵、襲衣隊、間諜、赤化、抗日分子等に佛へ燒き拂はれた南市の野に大の逞ましき吠えを聞き乍ら、寒さも物の數とも思はず、毎日江浦口め沿岸を睨んで大に張り切つて居ります故に下さい。

赤井耕整組命結成

赤井村西小川部落では飯米不足の緩和をはかるため耕地整理組合を結成、同部落三十七町歩の田地を開墾することゝなり此程認可申請打合せをなした

工場協會支部結成

平署管內百二十七工場を一丸とした工場協會支部創立發起人會を十三日同署に開き近く創立總會

母子で一千圓詐取
債券魔書類送檢

債券魔横山久(三六)並に母キタ(四八)は引續き平署で取調べの結果

泉村下川三戸源太郎さん方から母子共謀、横山の叔父に當る水郡線袋田驛長紺野保氏振出し名義の約束手形を偽造して二千圓を詐取

した餘罪も發覺、今十四日「詐欺並に有文書偽造行使詐欺」で一と先づ書類のみ送檢され、身柄は一旦中

債券魔横山久(三六)並に母キタ(四八)は引續き平署で取調べの結果

泉村下川三戸源太郎さん方から母子共謀、横山の叔父に當る水郡線袋田驛長紺野保氏振出し名義の約束手形を偽造して二千圓を詐取

した餘罪も發覺、今十四日「詐欺並に有文書偽造行使詐欺」で一と先づ書類のみ送檢され、身柄は一旦中

國民總動員と保險事業
前眞
牛崎平局長談

(二)

事變勃發以來、國民精神總動員が強調されて來たのは、國民が時局の重大性と帝國不動の國是を體識し物心兩面に亘つて非常時財政材は勿論のこと、其の他一切の消費節約運動の趣旨目的は軍需資源の涸渴なるものに他ならないのである、國民生活の安定は單に時局下に於て差支ないのである。

古鐵泥三名捕はる

內郷村方面に古鐵泥の横行町領域入山炭礦坑失伊藤武してゐることを知つた平署管內では此程同村白水から十三日午前十一時と十九の青年並に薄田某

これらは共謀で昨年七月以來鑛炭其他から古鐵泥を

聲明書

支那軍の暴戾なる侮日抗日の行動に對し皇軍は北支那の戰陣に百難辛苦を忍びて勇戰奮鬪する皇軍將兵の忠勇と辛酸に對し心からなる感謝を捧げんとして吾等在平記者聯盟同人は去る一月十八、九兩日寒氣凜烈たる街頭に起ち皇軍慰問募金を敢行せるところ幸市民愛國の赤誠は金額としてこれに應じ集ること義金七十二圓六十一錢に達し、即日縣田平聯合分會長立會の上義金率仕各位より贈りし組國愛の結晶金額を平市長青沼鉾太郎氏へ交し以て平市出征軍人家族並に第一線に名譽の負傷勇士への赤誠寄金に關いたり。然るに國島民俗平支局に本社を置く島田春雄盛行堂名に篠々磐城評論二月一日發行第六號三面に「旬刊聯盟ピックニュース」と題し侮辱的記事を掲載したり吾等は斷じて絶口默殺能はず去る八日午後一時聯盟本部所に緊急幹部會を開き對策審議の結果斯る如き記事乎排撃すると共に斯くの如き記事に拘泥せず銃後運動強化の重大を認識し、而かも時局は長期應戰に備へて國民步武を揃へ勇猛邁進すべき秋に當り本聯盟は更に第三次第四次の市民慰問を敢行し本聯盟は更に第三次第四次の市民慰問を敢行して右愛國感謝運動に全力を擧げる事に決定せり

右聲明す

昭和十三年二月十日

在平記者聯盟

いはき新報社　高橋龍夫
新福島新聞社　渡邊木喬
磐城中正新聞社　安澤榮作
福島新聞社　市島範三
昭和新聞社　吉田直吉
福島衛生新報社　佐藤興全
福島時事新聞社　吉田兵太郎
磐城大東新聞社　長谷川兵衛
福島經濟時報　佐川昌男
責任者　渡邊諦夫

簡易金融　壽無城磐　蓄貯の味趣　出張所各町內

廣告

代理店　文魁文堂
ウエル萬年筆
ライトインキ
ムツソリイニペン
ゼネラル、カーボン紙
雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ニコ〳〵印高級ソロバン
ドシコ帳簿・ライカ帳簿

東西會社の新商品
石鹸　齒磨子
良い電球は眼の護り
トウランプ　國產
連鎖店にあり

おでん　一平
電話二六三番

磐城名物　靈峰羊羹
小川郷驛前　平屋寶店

吉田眼科醫院
醫學士　吉田久雄
平市紺屋町　電話六八番

父祐五郎儀病氣中の處藥石効無く二月四日死去致し候に付此段及御通知候
追而二月六日茶毘に附し二月十五日午後二時自宅出棺平市長源寺に於て埋骨式執行可仕候
昭和十三年二月五日
平市鷹匠町七番地
男　小山雍一
親戚總代　神林專一
友人總代　小野金太郎

父大谷久藏豫テ病氣ノ處去ル八日午後七時十八分死去致シ候間此段御通知申上候
追テ葬送ノ儀ハ來ル二月十五日午後二時自宅出棺大寶寺ニ於テ佛式ニ依リ埋葬相營ミ可申候
昭和十三年二月十四日
男　武雄
親戚總代　大谷シカノ
吉野健吉
友人總代　鈴木辰三郎
井上茂作